

記者発表

<東京都北区と同日提供>



令和6年10月22日

| | |
|-----|--|
| 担当課 | 総合防災課 企画政策課 広報広聴課 |
| 担当者 | 松林、天野、榎本 |
| 電話 | (073) 435-1199 (073) 435-1015 (073) 435-1009 |
| 内線 | 5017、2562、2441 |

東京都北区との連携事業を実施します

本市と東京都北区は、飛鳥山公園や旧古河庭園など、歴史的な関わりが深く、ゆかりがあるスポットが多くあり、連携を進めてまいりました。今後、地域課題への対応や地域交流の活性化を推進するため、両者で実施する連携事業の詳細が決まりましたので、お知らせします。

○ 本市とゆかりのあるスポットの一例

【飛鳥山公園】

八代将軍徳川吉宗の命によって享保5年(1720)から翌6年にかけて、飛鳥山に1,270本もの桜が植えられ、江戸における桜の一大名所となりました。現在も桜の季節になると多くの花見客で賑わいを見せています。



【旧古河庭園】

この庭園はもと本市出身の陸奥宗光の邸宅でした。次男が古河家の養子になったのち、古河家の所有となりました(尚、この当時の建物は現存していません。)現在の洋館と洋風庭園の設計者は、英国人ジョサイア・コンドル博士(1852~1920)です。平成18年1月26日に文化財保護法により国の名勝指定を受けました。



【1】災害時における相互応援に関する協定(総合防災課)

能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報の発表を踏まえ、本市における災害対応力の向上や被災者支援の充実化を図るために、災害時における相互応援協定を締結します。

1 協定概要

大規模な災害が発生した場合において、円滑な災害応急対策及び災害復旧対策を行うための応援を実施します。

- (1) 食料、飲料水等の提供
- (2) 車両、資機材等の提供又は貸与
- (3) 職員の派遣
- (4) 被災者の一時収容のための施設の提供
- (5) 被災児童、生徒等の一時受入



2 協定締結式

- (1) 日時 令和6年11月5日(火) 11時00分
- (2) 場所 和歌山市役所本庁舎7階 記者会見室
- (3) 出席者 東京都北区長 やまだ 加奈子
和歌山市長 尾花 正啓



【やまだ区長】

【2】 八代將軍ゆかりの桜の枝交換

本市のシンボルである和歌山城と東京都北区の飛鳥山公園は、ともに八代將軍徳川吉宗ゆかりの桜の名所です。そこで両者の交流の証しとして、桜の枝を交換し、1年後に植樹を行います。



【3】 その他の交流事業(広報広聴課)

1 本市ゆかりのウォーキングコースを新設～本市の情報発信～

北区に所在する名所である清光寺、紀州神社、王子神社、飛鳥山公園、平塚神社、旧古河庭園及び六義園(文京区)を結ぶコースに、各所の解説を加えたマップを作成し、和歌山市と北区のつながりや歴史をPRします。

※「紀州・和歌山歴史ロード」は、北区の健康づくり総合アプリ「あるきた」に「歴史探訪コース(紀州和歌山編)」として追加されています。

※ 北区健康政策課主催で、11月16日(土)～30日(土)の期間限定キャンペーンとして「あるきた de 和歌山ウォーク」が開催されます。



あるきたアプリ

2 「紀州・和歌山歴史ロード」ウォークイベントの実施(メディア関係者向け)

- ・ 日 時：令和6年11月5日(火) 13時30分～16時00分
- ・ 申 込：和歌山市東京事務所宛(tokyojimusho@city.wakayama.lg.jp)

3「陸奥宗光伯生誕 180周年記念講演」の開催(要申込み)

- ・ 講演名：「日本外交の祖 陸奥宗光伯の足跡～北区と紀州和歌山の意外な関係～」
- ・ 日 時：令和6年12月8日(日) 14時30分～16時00分
- ・ 場 所：滝野川会館 小ホール(東京都北区西ヶ原 1-23-3)
- ・ 講 師：明治学院大学 准教授 佐々木 雄一 氏
北区文化施策アドバイザー／國學院大學・神奈川大学講師 石倉 孝祐 氏
- ・ 定 員：80名(先着順)
- ・ 主 催：和歌山市
- ・ 共 催：東京都北区

和歌山市出身で日本外交に輝かしい功績を残した“カミソリ大臣”陸奥宗光

陸奥宗光の功績



【陸奥宗光】
提供：和歌山市立博物館

紀州藩士であり国学者でもある伊達宗広の六子として生まれた陸奥宗光(1844~1897)。幼少期を和歌山城下(和歌山市)で過ごしたが、父・宗広が藩内の抗争に敗れ失脚、脱藩した後、尊王攘夷運動に参加した。その後勝海舟の海軍塾に入塾。慶応3年(1867)には坂本龍馬の海援隊に入るなど、さまざまな人物との交流を深めていった。明治維新後、紀州藩十四代藩主徳川茂承(もちつぐ)に信頼され、津田出(つだいずる)と共に藩政改革に邁進した。国政に進出し農商務大臣を務めた後、第2次伊藤博文内閣で外務大臣となり、江戸時代に結ばれた不平等条約、領事裁判権の撤廃や日清戦争の講和条約(下関条約)を結ぶなどの偉業を達成した。

博学で頭の良い宗光を人々は「頭の切れる者(頭の回転が早い)」という意味を込めて「カミソリ大臣」と呼んだ。宗光はたとえ上司であっても自分が認めた者でないと命令を無視したり、辞表をたたきつけたりしたという逸話もある。逆に自分の上司としてふさわしいと認めた人物には従順に接し、惜しみなくその才能を発揮した。「使い手(上司)の技量が問われ、使い方を間違えるとケガをする」という意味もまた「カミソリ」であった。

渋沢栄一と陸奥宗光は仲が良かった!?



【渋沢栄一】
「近代日本人の肖像」(国立国会図書館)を加工して作成

渋沢栄一(1840~1931)と陸奥宗光の付き合いは、明治3~4年(1870~1871)に陸奥が和歌山藩の用務で欧米へ訪れた際に、アメリカで伊藤博文とともに大蔵省の用務で訪れていた渋沢と出会ったことに始まる。陸奥は伊藤と旧知の間柄であり、一行とともに日本へ帰国した。

その後、廃藩置県を経て、明治4年(1871)8月神奈川県知事となった陸奥は、政府の租税制度の改革に関する意見書を提出していたため、明治5年(1872)6月に大蔵省の租税頭兼勤となり、渋沢の同僚となった。明治6年(1873)1月には、前年に操業開始した群馬県の富岡製糸場へ陸奥と渋沢は共に視察に訪れている。同年5月に渋沢は政府内部の意見対立により辞職するが、渋沢の後任として大蔵省三等出仕となったのが陸奥であった。

その後、陸奥が獄中生活を終え、ヨーロッパへ外遊する際にも渋沢は資金提供し、陸奥はたびたび渋沢に手紙を送った。のちに渋沢は陸奥を「一を聞いて十を知る機敏な頭脳を持っていて、そういう人は余りに先回りするので他人に嫌がられるものだが、至って交際しやすい人であった。私が陸奥をちょっと世話した縁故によって、ヨーロッパに訪れている時も始終手紙を寄せてくれ、手紙を数百通も所持している。知人から私に送られた手紙のうちで陸奥のものが一番多いと思う」(現代語訳)と述べている(「実験 論語処世談」)。のちに陸奥が農商務大臣となった時には、富岡製糸場の買い取りを渋沢に頼んだこともあったという。また、渋沢の支援で多くの鉱山開発を行った実業家の古河市兵衛が陸奥の次男を養子にむかえたり、陸奥の従弟である岡崎邦輔が渋沢らとともに京阪電気鉄道の設立に携わったりなど、両者の親族も交えた交流も行われていた。



和歌山城

万葉人や歴代藩主が愛した和歌の聖地「和歌の浦」

和歌の聖地の誕生

潮の干満によって干潟が現れては消え、刻一刻と変化しながら、四季折々の多彩な風景を魅せる和歌の浦。

和歌の浦は、和歌山市南部と海南市北部に位置する和歌浦湾をとり巻く景勝地である。和歌川の河口に広がる干潟を中心に、南は熊野参詣道・藤白坂から西は紀伊水道に面した雑賀崎まで、緑豊かな山並みと穏やかな海に抱かれた絶景の宝庫だ。

今から1300年前の奈良時代、「若の浦」と呼ばれていたこの地を訪れた聖武天皇が、玉のように美しく島々が連なる眺望に感動して詔を発し、玉津島の神と明光浦壺を祀り、この風景を末永く守るように命じた。行幸に従った万葉歌人の山部赤人が、和歌の浦の情景を讃え詠んだ躍動感にあふれる歌は、今も広く知られている。

平安時代の歌人・紀貫之がこの山部赤人の歌を、和歌の聖典とされる『古今和歌集』でとりあげたことから、和歌の聖地として崇められ、和歌の神が祀られ、やがて「和歌の浦」と呼ばれるようになった。熊野参詣や西国巡礼の際に、時の関白や大臣までもが訪れ、多くの和歌や物語に詠み込まれた。

江戸時代には、万葉歌や新古今和歌集に詠われた情景を描いた「和歌浦十景」が描かれ、数々の美術工芸品の題材となった。また、和歌の浦を模した庭園(六義園)が江戸に作られるなど、和歌の浦の風景は天下に名を馳せる名所となり、文化人たちの憧れとなった。

天下人や藩主も惚れ込んだ絶景

紀州攻めを行った羽柴(豊臣)秀吉が和歌の浦の景観に感動し、北方の岡山に築いた城を和歌の浦にちなんで「和歌山城」と名付けたことで、その城下が和歌山と呼ばれるようになり、現在の県名へと繋がったとされる。

江戸時代になると、徳川家康の十男である頼宣が、紀州徳川家の初代藩主として和歌山城に入り、和歌の浦の北西にそびえる権現山の中腹に父・家康を祀る東照宮を建立するとともに、干潟に浮かぶ妹背山には母・養珠院(お万の方)を偲ぶ多宝塔を建てた。さらに妹背山に三断橋を架けて観海閣を設け、風景を楽しむ場として民衆に開放した。

近代では、夏目漱石など文人墨客も来遊しており、南方の琴の浦には温山荘園が築かれ、皇族や大臣も訪れた。

そして現代、400年以上の歴史を伝える和歌祭の絢爛豪華な行列や、環境保全活動、万葉歌の勉強会などの活動も地元で進められ、時代を越えて人々を魅了し続けるすばらしき遺産を次世代へ伝える取組みが行われている。

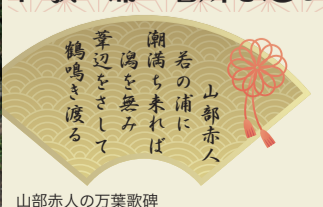


六義園のモデル
和歌の浦
へ行こう!

玉津島神社裏
奥供(てんく)山からの景色



和歌の浦の名所を巡る



山部赤人の万葉歌碑



番所庭園(ばんどこていえん)
異国船の見張り番所跡



養翠園(ようすいえん)
池泉回遊式の大名庭園



不老橋(ふるうばし)
藩主のお成り道に架けられた石橋



紀三井寺(きみいでら)
歴代藩主が祈願に参拝



和歌浦天満宮(わかうらてまんぐう)
和歌浦湾を見守る学問の神様を祀る



紀州東照宮(きしゅうとうしょうぐう)
関西の日光とも呼ばれている

紀州藩主だった八代将軍徳川吉宗が飛鳥山公園の桜をプロデュース

徳川吉宗と飛鳥山公園

江戸幕府八代将軍・徳川吉宗(1684~1751)は、時代劇ドラマ「暴れん坊将軍」のモデルであり、江戸幕府の中興の祖として徳川歴代将軍の中では特に知名度の高い人物である。

吉宗は徳川御三家の1つ、紀州徳川家二代・徳川光貞の四男として生まれたため、本来であれば家を継承する可能性はゼロに近かったが、兄達が相次いで亡くなった事で紀州藩55万5千石の藩主となった。さらに七代将軍徳川家継が急死した際に後継者がいなかった事から、周囲の後押しもあって思いがけず八代将軍に就任したという強運の持ち主でもある。

将軍に就任した吉宗は、有能な人材を登用したり、新田開発を推奨して年貢収入の増加を実現する等今でいう行政改革を進める事で当時財政的に疲弊していた幕府政治の立て直しに成功した。いわゆる享保の改革である。

この享保の改革は、肥大化した財政赤字を解消するため、武士から庶民に至るまで厳しい儉約を徹底させているが、その一方で新たな桜の名所が誕生したという一面もあった。当時江戸における花見の代表的名所は上野・寛永寺であったが、行楽客が増加して混雑がひどいという課題を抱えていた。そこで吉宗は上野以外にも桜の名所を作る事で混雑の緩和を思い立ち、享保5年(1720)からたくさんの桜の苗木を飛鳥山に植えさせたのである。この政策によって飛鳥山は江戸における桜の一大名所に成長し、現在に至るまで多くの東京都民の目を楽ませる存在となった。以上の経緯からまさに徳川吉宗は飛鳥山公園の生みの親であったと言える。



【徳川吉宗】提供：和歌山市立博物館



飛鳥山公園

紀州・和歌山 歴史ロードマップ

北区でたどる紀州の今昔

紀州・和歌山歴史ロード

全長約5.5km 徒歩約80分

- 1 清光寺 徒歩約6分
- 2 紀州神社 徒歩約28分
- 3 王子神社 徒歩約13分
- 4 飛鳥山 徒歩約10分
- 5 平塚神社 徒歩約3分
- 6 旧古河庭園 徒歩約3分
- 7 六義園 徒歩約20分

4 飛鳥山

東京都北区王子1丁目1-3

八代将軍徳川吉宗の命によって享保5年(1720)から翌6年にかけて、飛鳥山に1,270本もの桜が植えられ、享保18年には桜が根付いて花を開かせるようになり、水茶屋が10ヶ所建てられ、江戸市民の行楽の場となりました。

元文2年(1737年)閏11月に、吉宗による事績を顕彰するための「飛鳥山碑」が建てられました。この碑文は江戸時代には飛鳥山のランドマークともなり、浮世絵などで芝山に桜と石碑を描けば飛鳥山を示しました。明治6年には東京で5ヶ所ある太政官公園のひとつにも選ばれました。

現在も桜の季節になると、多くの花見客で飛鳥山公園は賑わいを見せています。



6 旧古河庭園

東京都北区西ヶ原1丁目27-39

庭園はもと明治の元勲・陸奥宗光の別邸でしたが、彼の次男潤吉が足尾銅山で名高い財閥古河家の養子になり、以降この地は古河家の所有となりました。(この当時の建物は現存していません。) 武蔵野台地の高低差に富む地形を巧みに利用した、大正初期の庭園の原型を留める貴重なものです。戦後、一時進駐軍(英国将校)の管理に移り建物は荒廃しましたが、やが

て国の所有となりました。地元の要望などを取り入れながら、東京都が国から無償で借り受け、一般公開されました。建物は創建時に近い状態に復元修理され、現在に至っています。

洋館と洋風庭園の設計者は、明治政府の「お雇い外国人」英国人ジョサイア・コンドル博士、日本庭園の作庭者は、京都の庭師「植治」こと七代目小川治兵衛です。



7 六義園

東京都文京区本駒込6丁目16-3

六義園は、五代将軍徳川綱吉の側用人である柳澤吉保が1702年に築園した「回遊式築山泉水」の大名庭園です。吉保は和歌や儒学・仏教への造詣が深く、和歌の趣味を基調とする六義園の名は、中国の詩の「六義」にならった古今集の序にある和歌の分類に由来しています。江戸時代の大名庭園の中でも代表的なこの庭園には、和歌の浦や吹上浜、紀ノ川や

藤代峠(藤白峠 海南市)、新玉松(和歌の浦鎮座の玉津島神社「衣通姫尊」)など、庭園の随所に紀州の景勝が映し出され、また『万葉集』や『古今和歌集』より名勝を取り出し、八十八境を構成しています。



北区と紀州・和歌山の古くてなが〜い意外な関係

北区には意外にも!?古くから紀州和歌山とのつながりがたくさんあります。

それは、平安後期に豊島郡(現在の北区を中心とした地域)を本拠とした武士団である豊島氏、その中でも源頼朝の基で活躍した豊島清光の時代からとされています。その息子有経は、紀伊守護に任じられ、豊島氏は、豊島郡の各所を荘園として紀州熊野三山に寄進しました。王子神社は紀州熊野信仰の拠点となった神社であり、紀州神社は五十太郎神社(現伊太郎神社・和歌山市)を勧請したのがはじまりです。

くだって、江戸時代、紀州藩主だった八代将軍徳川吉宗は、鷹狩りに訪れていた飛鳥山の地が故郷紀州と関係のある王子神社からほど近いことなどに縁を感じ、飛鳥山に1270本もの桜を植え、桜の名所として広く庶民に開放しました。吉宗の事績を顕彰した「飛鳥山碑」は、江戸城にあった紀州の巨石を使って建立されたものです。

最後に、西ヶ原にある旧古河庭園は、明治の元勲・陸奥宗光(紀州出身)の別荘でした。飛鳥山に別荘を持つ渋沢栄一との付き合いは、明治初期から始まり、多くの手紙のやりとり、親族を交えた交流が続き、近代日本の礎を築きました。

3 王子神社

東京都北区王子本町1丁目1-12

王子権現は、縁起によれば紀州熊野三所を勧請したもので、祭神は速玉之男命、伊弉册尊、事解之男命です。王子村は古くは岸村と称していましたが、同社が勧請されて王子村と改めたといわれています。勧請の年代は不詳ですが、康平年中(1058-65)源義家が奥州征伐(前9年の役)の時、ここで金輪仏頂の法を修せしめ、凱旋の日、甲冑を奉納したと縁起にあるので、それ以前の勧請であると推定されます。



1 清光寺

東京都北区豊島7丁目31

真言宗豊山派寺院の清光寺は、医王山と号します。清光寺は、豊島清光が開基となり創建、鎌倉期は大寺でしたが、太田道灌との戦いに敗れた豊島泰経の没落後、衰退、戦国時代末期の布川豊島氏の一族豊島明重により再興したといわれています。当寺に安置されている豊島清光像は江戸時代中期の作で、北区指定文化財です。



2 紀州神社

東京都北区豊島7丁目15-1

紀州神社は、元亨年中(1321-24)、紀州熊野の鈴木重尚が現在の北区豊島の地に拠点を置いた在地領主豊島左衛門清光に諮り、王子村に勧請したといわれています。天正年中(1573-92)争論があり、小名(こな)宮ノ前に、更に小名馬場に遷座を繰り返した後、当地に遷座したといわれています。



5 平塚神社

東京都北区上中里1丁目47-1

平塚神社の創立は、平安後期元永年中といわれています。八幡太郎源義家公が奥州征伐の凱旋途中にこの地を訪れ領主の豊島太郎近義に鎧一領を下賜されました。近義は拝領した鎧を清浄な地に埋め塚を築き自分の城の鎮守としました。塚は甲冑塚とよばれ、高さがなかったために平塚ともよばれました。さらに近義は社殿を建てて義家・義綱・義光の三兄弟を平塚三所大神として祀り一族の繁栄を願いました。



アプリ内のコースチャレンジでも同じコースが歴史探訪コース(紀州和歌山編)として紹介されています。コース制覇で貯めたポイントで景品の抽選に応募できます!

北区健康づくり総合アプリ「あるきた」